

松島英子教授のご退職にあたって

KANAYAMA, Yoshiaki / 金山, 喜昭

(出版者 / Publisher)

法政大学キャリアデザイン学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学キャリアデザイン学部紀要 / 法政大学キャリアデザイン学部紀要

(巻 / Volume)

11

(開始ページ / Start Page)

17

(終了ページ / End Page)

19

(発行年 / Year)

2014-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00009657>

松島英子先生退職記念

松島英子教授のご退職にあたって

法政大学キャリアデザイン学部長 金山 喜昭

長年、本学部で教鞭をとられてきた松島英子先生が、今年度をもってご退職されることになりました。これまでの先生のご活躍に対して、ひとことお礼の言葉を述べさせていただきます。

本学部は、多彩な学問領域の教員からなることが特徴となっています。先生のご専門はメソポタミア研究ですが、そのことは本学部の多彩さを特徴づけるものとなってきました。

先生は、東京藝術大学美術学部藝術学科卒業・同大学院美術専攻科修了（藝術学修士）を経て、パリ国立高等研究院歴史文献部ならびにパリ第一大学歴史学部門に留学され、パリ第一大学から歴史学博士（第三課程）を授与されました。

先生は本学部には、2003年に非常勤講師として授業を担当され、学部開設の2年目から教授としてお迎えしました。学部では、基礎ゼミ、世界の生活文化基礎演習、文化の受容と変容、歴史と文化、キャリアデザイン学演習、キャリアデザイン学入門、文化入門、卒論指導などの授業を担当していただいた。また2012年にカリキュラムを改定してからは、基礎ゼミ、キャリアデザイン学基礎演習、多文化社会論、地域文化論、外書講読、キャリアデザイン学演習、卒論指導を担当されました。ご専門の学識を踏まえながら、幅広い知見から学生の指導にあたっていただき、多くの学生が先生の学問に触れて成長しています。

18 法政大学キャリアデザイン学部紀要第11号

また、その間、ご研究も精力的に行われ多くの研究業績を出されています。本学部の『法政大学キャリアデザイン学部紀要』に、その成果の一端を発表されていますので、次のように紹介させていただきます。

- ・「バビロンのマルドゥク像をめぐる一偶像崇拜とそれに関わる問題点」(2005年3月)
- ・「メソポタミアにおける文字と思考についての一考察」(2006年3月)
- ・「古代メソポタミアにおける特定の文字の取り扱いについて」(2007年3月)
- ・「マルドゥク神のキャリア形成—叙事詩“エヌマ・エリシュから”」(2008年3月)
- ・「メソポタミアの人々にとっての光と闇」(2010年3月)
- ・「神の婚礼」再考に向けての一試論」(2012年3月)

また、先生は翻訳書も手掛けられています。なかでも法政大学出版会から出版されたメソポタミア研究者のジャン・ボテロの著作を翻訳された仕事はオリエンタリヤ研究者や愛好家のなかで高く評価されています。『メソポタミア 文字・理性・神々』、『バビロンとバイブル 古代オリエントの歴史と宗教を語る』、『最古の宗教 古代メソポタミア』などがあります。松岡正剛は、そのうちの一冊『メソポタミア 文字・理性・神々』を千夜一夜で取り上げて次のように評価しています。

本書はまことにすばらしい研究書だった。多忙をものともせず、久々に数カ月をかけて読んだ。そうとうに興奮した。こういうときは、その興奮の中身をうまく説明することがしにくい。なぜなら、読んでいるときに次々に浮かんだ“構想”のようなものがあるのだが、その“構想”は本書から得たものであって、本書の記述そのものではない。しかし、そのようにさせるものが本書には連打されている。ほくにとっての快著とは、そういうものなのである。

このようにメソポタミア研究者としての先生の学問的な着眼力の高さは斯界にとどまらず、オピニオンリーダーからも認められているところです。

近年では、精力的に海外学術調査に参加されて、イラン国立博物館（テヘラン）における楔形文字資料調査を行っています。この調査はまだ今後も継続していかれると伺っております。

本学部は、先生が所属された<ライフキャリア領域>のほか、<発達・教育キャリア>、<ビジネスキャリア>の3つの領域からなるため、多様な学問領域の教員で構成されています。このことは全教員が抱えていることだと思いますが、多様性をどのように生かしながら、分散させることなく、一つの理念のもとで学問形成をはかっていくことができるかということが課題ともなっています。

キャリアデザイン学は、まだ生まれて間もない学問です。先生は、キャリアデザイン学の構築のために、ご専門の研究を発展させつつもチャレンジされました。それを実現するためには時間が足りなかったかもしれませんが、少なくともそのような努力を惜しまずに本学部に身を置いていただいたことに感謝したいと思います。

最後になりますが、松島先生の今後益々のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。